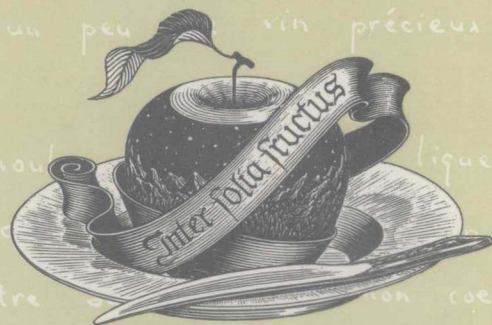


Kenji Gohda

J'ai, quelque jour, dans l'Océan
(Mais je ne sais plus sous quels cieux)

Jete, comme offrande au néant,
Tout un peu de vin précieux...

Qui voudrait la liqueur?
J'ose à peine le demander?
Peut-être que mon cœur
Songeant au sang versant le vin?



吉田健一集成

Sa transparence accoutumée

6

Après une rose fumée

随筆Ⅱ

Reprit aussi pure la mer....

甘酸つばい味

Perdu ce vin dans les ondes!....

舌鼓ところどころ

J'ai vu bondir dans l'air amer

私の食物誌

Les figures les plus profondes....

酒と食べものをめぐる面目躍如の随筆集三作を収録

新潮社

吉田健一集成

6

随筆Ⅱ

新潮社

Keiichi Yoshida

吉田健一集成

6

[第8回配本]



発行…………一九九四年二月五日

著者…………吉田健一「よしだ・けいいち」

発行者…………佐藤亮一

発行所…………株式会社新潮社

東京都新宿区矢来町七一

郵便番号 一六二

電話 営業部〇三・三二六六・五一一

編集部〇三・三二六六・五四一一

振替 東京四一八〇八

印刷所…………凸版印刷株式会社

製本所…………加藤製本株式会社

価格はカバーに表示してあります。

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが、小社読者係宛お送り下さい。
送料小社負担にてお取替えいたします。

吉田健一集成・6 ■ 目次

甘酸っぱい味

書き出しの言葉

季節季節

懐古の情

新しいもの

中古のもの

規格外品

食べもの

高級なこと

日本の小説

地を這ふ文化

眼の前にあること

平凡

浪漫主義

紙の世界

21

23

24

26

27

29

30

32

33

35

36

38

39

41

42

言葉の力	44
歯と耳	45
足	47
再び食べものに就て	48
飲むこと	50
理想	51
人間であることに就て	53
おでん屋	54
東京と大阪	56
都市	57
家	59
古い家	60
庭	62
自然	63
我々の体	65

彫刻	66
博物館	68
バア	69
飲み屋	71
カフェ	72
日本の場合	74
生きて行くことと仕事	75
暇潰し	77
一本の酒	78
我々の場合	80
他所の場所	81
ここ	83
昔通り	84
機械文明	86
未来図	87

縁日	思ひ出	採集	歴史の教へ方	昔話	日本	年月	乱世	戦争の跡	戦争	煙草の煙	その頃	或る時代	近代	時代
----	-----	----	--------	----	----	----	----	------	----	------	-----	------	----	----

110	108	107	105	104	102	101	99	98	96	95	93	92	90	89
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----

我々の生活
趣味
縮図
暇
現実
重箱の隅
技巧
距離
帰郷
執着
住居
アパルト
楽天主義
暗黒面
笑ひ

132 131 129 128 126 125 123 122 120 119 117 116 114 113 111

負け惜み	134
眠ること	135
お談義	137
そつぽを向く	138
小事件	140
軍部	141
海軍	143
漸進主義	144
明治調	146
校長の禿げ頭	147
地理	149
古人の月	150
チンドン屋	152
今日のこと	153
拙速	155

観 点

釣り合ひ

暇な人間

言葉遣ひ

自分の国の言葉

まだまだの精神

伝 統

この一筋の道

名 称

息抜き

おしまひ

舌鼓とところどころ

食べものあれこれ

日本 175 支那 181

西洋 187

175 173 171 170 168 167 165 164 162 161 159 158 156

舌鼓とところどころ

新鮮強烈な味の国、新潟 189

食ひ倒れの都、大阪 194

瀬戸内海に味覚あり 200

カステラの町、長崎 206

味のある城下町、金沢 212

世界の味を持つ神戸 218

山海の味、酒田 223

以上の裏の所 229

胃の話

女房コック論

饗宴

当て外れ

仕事をする気持

駅弁の旨さに就て

東京の食べものや

261

飲み食ひの思ひ出

264

酒と人生

269

酒の飲み方に就て

273

飲む話

274

文学に出て来る食べもの

278

私の食物誌

293

私の食物誌

295

長浜の鴨

295

神戸のパンとバタ

295

飛島の貝

296

近江の鮎鮓

297

瀬戸内海のままかり

298

広島の牡蠣

299

新潟の筋子	299
金沢の蟹	300
関西のうどん	301
東京の握り鮓	302
明石の鯛	302
富山の鱒鮓	303
長崎の豚の角煮	304
大阪の雀鮓	305
大阪のかやく飯	306
大阪の小料理屋	306
日本の西洋料理	307
京都の漬けもの	308
金沢の蕪鮓	309
京都の蓴菜	309
東北の味噌漬	310
関西の真名鯉の味噌漬	311

金山寺味噌	312
横浜中華街の点心	312
金沢の胡桃餅	313
日本海の烏賊の黒づくり	314
瀬戸内海のめばる	315
石川県の鱈の蒲焼き	316
北海道の牛乳	316
浅間山麓の浅間葡萄	317
信越線長岡駅の弁当	318
群馬県の豚	319
京都のすつぼん	320
瀬戸内海の鯛の浜焼き	320
京都の筍	321
関西のおでん	322
長崎の唐墨	323
東京の佃煮	323

- 関東の鮪 324
- 鎌倉の海老 325
- 竜野の素麺 326
- 新潟の餅 326
- 東京のこはだ 327
- 佐久の鯉 328
- 東京の慈姑 329
- 北海道のじゃが芋 330
- 石川県の棒鱈 330
- 金沢のごり 331
- 広島県の奈良漬 332
- プリマス・ロツクといふ種類の雞 333
- 大阪のいひだこの煮もの 333
- 大阪の鰻の佃煮 334
- 広島菜 335
- 新潟の身欠き鮓の昆布巻き 336

大磯のはんぺん	336
蒲鉾	337
能登の岩海苔	338
京都の小鯛の酢漬け	339
神戸の穴子	339
関西の鱧	340
日本のワントン	341
大阪の鯖鮓	342
岡山の七面鳥の塩焼き	342
甲府の鮑の煮貝	343
数の子の麩漬け	344
群馬県の雞	345
近畿の松茸	346
氷見の乾しうどん	346
神戸のイタリイ料理	347
静岡の山葵漬け	348